

令和7年度学校評価表

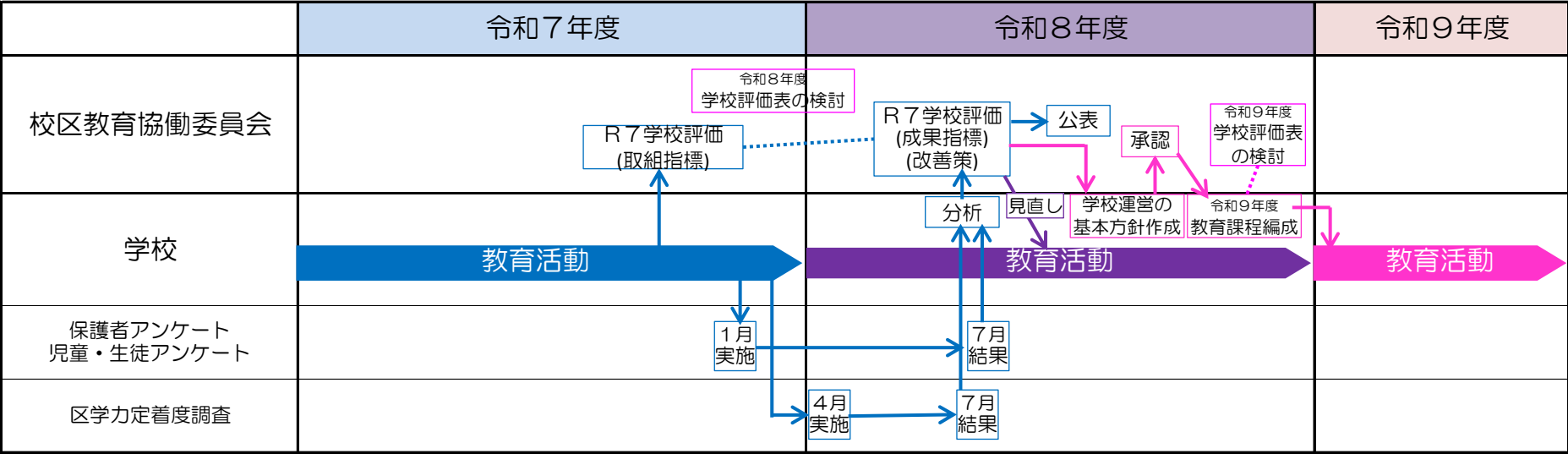
品川区立立会小学校	校長	深尾 剛
立会小学校校区教育協働委員会	委員長	井上 健

校区教育協働委員会は、品川区校区教育協働委員会設置要綱（改正 令和5年3月24日 教育長決定 要綱第5号）に基づき、次に掲げる事項について、学校評価を行っています。

- (1) 学力に関すること。
- (2) 人間性や社会性に関すること。
- (3) 体力・健康に関すること。
- (4) いじめ防止の取組に関すること。
- (5) 特色ある教育活動に関すること。

学校評価を行う際、評価項目ごとに「成果指標」と「取組指標」を設定し、取組状況と取組によって表れた成果について把握しています。学校評価により浮き彫りになった学校の課題を委員会で共有し、改善策を考えました。学校評価の結果を公表するとともに、今年度の取組の見直しや来年度の教育課程の編成に生かしていきます。

学校評価の流れ（※令和7年度の学校評価が令和8年度および令和9年度の教育活動につながる部分のみ表記しています。）



令和7年度 学校評価 品川区立立会学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○基本的・基礎的な内容の確実な定着を図り、意欲的に学ぶ児童の育成を図る。 ・学習スタンダードをさらに定着させ、全ての学級における学習規律の徹底を図る。 ・調査等の評価を適切に行い、その後の指導に生かすことで基礎学力の定着を図る。 ・家庭と連携しながら、基礎基本の学力を確実に定着させる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学習規律が徹底され、学習スタンダードの達成率が80%を超えている。	一定数特別に支援が必要な児童がいるが、学校全体の学習規律は保たれている。	A	・取り組みを継続していく。 ・支援に必要な児童については、学年や算数担当、支援員と打合せし、学力の向上を図る。
	学習スタンダードの定着を図るために、学級内で実態調査を行い、改善に向け指導を徹底する。	月の一度のスタンダードチェックにより、課題改善に向けた取組ができている。	A	
②	区の学力調査における全国の国語と算数の平均点を100とした場合、比較値で100を超えている。	どの学年も100を超えており、国語と算数ともに平均は112である。	A	・各教科において、間違えやすい内容は、授業や指導の工夫をしていく。 ・各学年において苦手なところは、次年度引き続き強化し、改善を図る。
	前年度の結果分析を踏まえ、授業改善を行い、学力の定着に努める。	学力調査、東京ベーシックドイルの結果を分析し、成果と課題を組織的に共有し、それぞれ課題点に対する対策を学年ごと、教科ごとに定めて取り組んだ。	A	
③	家庭学習の習慣化を調査し、定着率80%以上を目指す。	概ね達成できている。	A	・一定数の児童は、家庭で非協力的な面が見られるので、家庭への呼びかけだけでなく、学校でフォローしていく。
	宿題スタンダードに基づき、家庭学習(低30分・中40～50分・高60分)に取り組ませる。	未提出の児童は一定数どの学年にもいるが、年度初めに保護者にもスタンダードを共有し、取り組ませている。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目2 人間性や社会性に関すること

重点目標		○子ども一人ひとりに豊かな社会性と人間性の育成を図るために、「いじめ」「不登校」はゼロを目指す。 ・毎週金曜日の生活指導夕会で児童の情報交換をし、全教職員で情報共有のもと指導にあたる。 ・縦割り班を1～6年で組織し、異学年での活動を取り入れ、心のつながりを広め、豊かな人間関係を育てる。 ・特別支援コーディネーターとスクールカウンセラー、特別支援専門員、巡回指導員と情報を共有しながら、支援を要する児童の指導にあたる。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学校風土調査で学校生活や友達関係など肯定的に回答している児童が80%以上いる。	学校風土調査の偏差値では全学級で肯定的な結果となった。	A	・引き続き日々の生活において、児童一人ひとりの様子に目を配っていく。 ・児童の人間性が豊かになる学習活動を地域の方々とつくりあげていく。
	特色ある教育活動など、体験的な活動を通して指導する。	充実している。	A	
②	学校風土調査で挨拶について肯定的に回答している児童が80%以上いる。	達成できている。	A	・挨拶の指導は一年間通して続けていく。 ・高学年をよき手本として、学校全体がよい雰囲気がつくれるようにする。
	教師は、挨拶や礼儀、場に応じた行動など、しつけるべきことを具体的に指導する。	どの学年においても指導を徹底している。実態としては、高学年になればなるほど挨拶の習慣がついている。	A	
③	児童は静かに集合や整列ができ、日常の学校生活において規律ある行動が確実にできるようにする。	集合や整列時、周囲との私語があり、静寂を保つのに時間を要する場面が見受けられる。日常の規律ある行動が習慣化できていない点が課題。	B	高学年が手本となり、集団としての切り替えの意識を高める指導や、児童が自律的に行動を律する仕組みを作る。縦割り班で高学年が整列をリードする機会を増やす。
	「生活スタンダードに基づき、統一した指導を行うことで定着する」という共通の意識をもち、ぶれがない指導を行う。	生活合指導夕会での共有、全校朝会での指導など、教科担任制のもとに各職員が複数の学級で指導する機会もあり、統一した指導に繋がっている。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

令和7年度 学校評価 品川区立立会学校

評価項目3 体力・健康に関すること

重点目標		○すすんで運動に取り組む意識と意欲を育む。自分の健康について正しく理解させ、生涯にわたってすすんで健康づくりに取り組めるようにする。 ・体力調査の結果から学年の実態を把握し、一学級一取組などの実践を通して指導を行う。 ・品川スポーツトライアルやワンミニッツエクササイズの実践を通して、運動の日常化を図る。 ・自らの体に関心を持ち、健康の保持増進につながる指導を行う。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	体力調査の結果が昨年度までの記録や都平均と比較して上回るようにする。	特に柔軟性や投げる力の低下が顕著であり、屋内外での運動量の偏りが課題として浮き彫りになっている。	B	体育の授業だけでなく、休み時間の有効的な活用や、家庭との連携を通じ、全校を挙げた体力向上の取組の強化が必要である。
	テクニカルアドバイザーを活用し、体育のねらいを明確に設定し、児童自身が課題をもって意欲的に運動に取り組むようにさせる	達成できている。	A	
②	全クラスで定期的にスポーツトライアルを導入する。	年2回で実施している。	A	・楽しく運動する機会を引き続きつくっていく。 ・遊びのバリエーションを増やせるように、学級でも身体を動かすレクを紹介していく。
	体力調査の結果をもとに種目を設定し、休み時間や体育の時間に取り組む。	取組を実施しているが、日々の授業進度の確保や学校行事により、時間の確保が十分とは言えない。	B	
③	虫歯のない児童率80%虫歯治癒率100%を目指し、健康保持増進に取り組む。	虫歯のない児童率は98.2%と目標を大きく上回った。	A	虫歯治癒率57%については、未受診者家庭への働きかけを強化し改善を図る。
	年に2回歯科検診を実施し、結果の周知・治癒勧告を通して歯の健康意識を高める。	年2回の歯科検診と治癒勧告を行った。虫歯のない児童は高水準を維持しているが、治癒率向上が課題である。	A	
	学校歯科医と連携し、歯磨き指導の実施について計画する。	5年生を対象にした全国小学生歯みがき大会に参加し、正しい歯みがき方法と歯周病予防について学習した。次年度も継続する。	A	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目4 いじめの防止の取組に関すること

重点目標		○教員はいじめ問題への鋭敏な感覚を養い、未然防止、早期発見、早期対応に努める。 ・いじめに対しては、学校全体で情報を共有し、組織的な対応を図る。 ・学校いじめ防止対策委員会を組織し、各教職員の役割と責任を明確にし、学校一丸となって解消に取り組む。 ・毎月各学年で情報共有を行い、いじめにつながりそうな事案を生活指導部や管理職と定期的に報告する。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	児童は、いじめは重大な人権侵害であると認識して、言葉遣いや態度に気を付けている。	どの学年においてもいじめ防止トリプルチェンジの授業を実施したが、知識として知ることと感覚として身に付けて行動の変容が見られるようになるには、さらなる工夫が必要である。	B	定期的な授業での指導はもちろん、例えば、月ごと週ごとの目標を立て、月末や週末の帰りの会で振り返りをする。また、会社活動で全校的な取組を計画し、「ふわふわ言葉」を広めるキャンペーンなどを行う。
	児童は土曜授業においていじめ防止バッジを付ける。計画的に市民科でいじめ防止につながる授業を行う。	学校公開において、いじめ防止を目的とした授業を行った。	A	
②	いじめ対策委員会において迅速に対応し、いじめ発見から、1カ月以内の解決を目指す。	いじめの案件があると、その週の生活指導夕会で必ず共有している。いじめ防止対策委員会を毎月開催し、情報共有を実施し、早期解決に向けた方策を話し合っている。	A	・いじめは絶対にゆるさない姿勢を教師は示し続けていく。そのために即時対応していく。 ・保護者においても、いじめの捉えが様々であるため、丁寧な対応ができるように時間をかけて指導する。
	定期的にアンケートを実施し、早期発見に努める。学校いじめ対策委員会で組織的な対応をする。	品川区で行っている1人1台端末を用いて、毎月いじめDアンケートを実施している。また、毎日行うデイケンや、学校風土調査、NiCoLiのアンケートを通して、多方向から児童理解に向けた取り組みを実施している。	A	
	養護教諭、担任、管理職、スクールカウンセラー、巡回相談員がチームを組み、情報を共有する。	生活指導夕会を毎週、いじめ防止対策委員会を毎月開催し、情報共有を実施し、早期解決に向けた方策を話し合っている。	A	
③	児童は、インターネットやスマートフォンとの上手な付き合い方を考えている。	授業での啓発やICTスタンダードの活用により、学校では一定の成果は見られている。しかし、実生活で自律的にコントロールするまでには至っていない。	B	「立会小版スマホネットツール」を児童を中心に策定し、自分たちで守る意識を高める。また、家庭と連携した「ノーメディアデー」の設置や、外部講師による情報モラル教室を開催する。
	保護者会やお知らせ等でSNSの家庭でのルール作成の啓発をする。	保護者会や通知で啓発を行っているが十分ではない。	B	

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目5 (特色ある教育活動に関すること)

重点目標		○体験学習やボランティアを活用した専門的な活動を取り入れ、本物にふれた授業を計画・実施していく。 ・音楽会、学芸会などに力を入れ、児童の情操を育む ・各種行事に対しての事前事後の指導を丁寧に行い、児童の成長や心の変容の把握に努める。		
評価指標	最上段:成果指標	最上段:成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降:取組指標	2段目以降:取組指標の達成状況の説明		
①	学校行事後の保護者アンケートにおいて肯定的な意見を80%以上にする。	達成できている。	A	・保護者や教員の意見を参考に、より良い行事の運営を目指していく。 ・改善点は確実に次年度の担当に引き継ぐようにする。
	運動会や学芸会など、児童の感性を育む活動を実践する。	教科の学習や他の行事との兼ね合いにより、今後は実施について、検討が必要である。	A	
②	学校行事後の児童の感想において肯定的な感想を80%以上にする。	達成感のある回答と振り返りをしている。	A	・児童の実態を考慮して計画をたてると共に、教員どうして連携をとって行事を運営していく。
	「ドリームジョブ」「稲刈り体験」「筆教室」等、様々な体験学習を重視した質の高い授業を展開する。	保護者のボランティアや外部講師との連携により、充実している	A	
③				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

例

①令和6年度末（教育課程届から重点目標を設定し、評価指標を立てる。）

令和7年4月（評価指標の確認を行う。）

令和7年度 学校評価 品川区立立会学校

評価項目1 学力に関すること

重点目標		○義務教育9年間を通して、学力の向上とそれに基づく実行力の育成を図る。 ・基礎基本の定着を図るために、帯の時間を活用するとともに、定期的に確認テストを行う。 ・校内研究をICTを活用した授業をテーマに校内研究を進め、授業改善を図る。 ・中学校区の小中連携により、基礎基本の定着および発展的学習を取り入れ、教科指導の充実を図る。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査（4月実施）では各問の平均正答率を70%とする。			
	帯の時間では、週2回の数学、週2回の国語を取り組ませる。計算・漢字だけではなく、文章題にも取り組ませる。			
	各教科で電子黒板を活用し、視覚教材を効果的に活用し、生徒の理解に役立てる。			
	中学校区の小中学校合同の教科部会を年6回開催し、授業の決まりや教科の指導方法の統一を図る。			
②				

A＝十分達成できた B＝おおむね達成できた C＝未達成

例

② 7～9月頃（前年度の結果を基に今年度の取組に修正・追加を行う。）

令和7年度 学校評価 品川区立立会学校

評価項目 1 学力に関すること

→その年度の取組の修正および翌年度の教育課程編成に生かす。

重点目標		○義務教育9年間を通して、学力の向上とそれに基づく実行力の育成を図る。 ・基礎基本の定着を図るために、帯の時間を活用するとともに、定期的に確認テストを行う。 ・校内研究をICTを活用した授業をテーマに校内研究を進め、授業改善を図る。 ・中学校区の小中連携により、基礎基本の定着および発展的学習を取り入れ、教科指導の充実を図る。		
評価指標	最上段：成果指標	最上段：成果指標の達成状況の説明	評価	今後の課題と改善策
	2段目以降：取組指標	2段目以降：取組指標の達成状況の説明		
①	区学力定着度調査（4月実施）では各問の平均正答率を70%とする。			
	帯の時間では、週2回の数学、週2回の国語を取り組ませる。計算・漢字だけではなく、文章題にも取り組ませる。			
	各教科で電子黒板を活用し、視覚教材を効果的に活用し、生徒の理解に役立てる。			
	中学校区の小中学校合同の教科部会を年6回開催し、授業の決まりや教科の指導方法の統一を図る。			
	(追加)○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○			
②				

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

評価項目 1 学力に関すること

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

→その年度の取組の修正および翌年度の教育課程編成に生かす。

評価項目 1 学力に関すること

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成

A=十分達成できた B=おおむね達成できた C=未達成